

日 時 令和7年1月8日（水）午後7時から午後8時25分
場 所 松平交流館 大会議室
出席者 地域会議委員13名、事務局 3名

【内 容】

1 会長あいさつ

2 報告

前回の議事録について

資料に基づいて、第7回地域会議の内容について、事務局が説明した。

3 協議

提言に向けた協議について

11月の地域会議から引き続き、「第2次松平地域まちづくり構想 前期実践計画15項目」のうち、以下の3項目について協議した。

- ・松平地域自主防災会連絡協議会、各自主防災会、消防署、消防団、民生委員との連携強化、消防署、消防団などの活動周知
- ・子どもと地域をつなぐ環境、多世代交流、居場所づくり
- ・狩猟活動の普及

3つのグループに分かれて「狩猟活動の普及」に関して協議し、最後に全体で各グループの協議結果を発表した。

内容は以下のとおり

・ここ数年の間に、シカやイノシシを目撃することが急激に増えている。現在は山間部でしか見ないが、急増していることを考えると、岩倉や巴町などにも波及してしまう可能性もある。現在どれだけいるのか等の情報が分かっていないので、実態調査が必要ではないか。

・柵やネットは自分で対策ができて、檻や罠、駆除等は猟友会に頼っている状態。また、田畑を持っている人だけが考えていては限界がある。災害対策として、自治区や猟友会、市の援助などを組織化することが必要。

・目指す姿としては循環型社会の構築。猟友会や農業をしている人だけでなく、新たな団体を作って、捕獲した動物を食肉として多くの人に提供することが理想ではないか。

・猟友会に対しても、生業としてなりたつような仕組みが必要ではないか。趣味やボランティアのような形になってしまっている。危険を伴う活動であるからこそ、しっかりとした仕組みで駆除等の対応を依頼するべきだと考える。

・猟友会が積極的に活動しているが、急増する獣に対応が追いつかない。また、費用等の問題があり、農作物の対策も十分にできない。

・同じ松平地域でも、住んでいる場所によって獣害の被害状況や捉え方が違うと感じた。普段目撃しないような地域では、もし出た場合にどうすればいいか全くわかっておらず、過剰に反応してしまうことも予想される。出た場合の仕組みを確立することも必要ではないか。

・スズメバチなどの害虫に関しては現在特に支援制度がないが、気温の変化などにより増えていて危険であるため、なにか支援があるといい。

4 連絡事項

なし

次回会議について

- ・ 日 時：令和7年2月12日（水） 午後7時から
- ・ 場 所：松平交流館 大会議室
- ・ 議 題：We Love 松平通信の内容確認、提言に向けた協議 など